

主は人の一步一步を定め／御旨にかなう道を備えてくださる。

詩編 37 編 23 節（日本聖書協会・新共同訳）

わたしは水泳が苦手です。

子どもの頃、夏になって、体育の授業で水泳が始まると、憂鬱な気持ちになりました。順番に並んで、25メートルプールを泳がされる。上手な人は何気ない顔でプールの向こう側まで泳ぎます。さらに上手な人は25メートル行き着くと、イルカのようにクルッとターンして、さらに25メートル泳いでこちら側に戻ってきます。

わたしは、スタート台に立つと、「遠いなあ」と25メートル先を見ていました。「行けるわけがない」ともうあきらめています。そんな気持ちだから、何メートルか行くと、すぐ足をつく。

25メートルは遠い……。得意なボール投げの時は近いのに、プールの25メートルは遠いのです。

もう学校も卒業して、プールで水泳をやることなどなくなった頃、昔スイミングスクールでたくさん泳いでいたという人に尋ねました。どうして、たくさん泳げるのか、と。中には遠泳などと言って海で何百メートル、何千メートルも泳ぐ人がいる。どうしてか、と。同じ人間なのに、私には考えられない、と。

その人は答えてくれました。

「何メートル泳ごうとか、何百メートル泳ごうとか、あそこまで行こうとか、そう考えないで、あとひとかき、だめだと思えても、あともうひとかき、あとひとかきは出せる、と言ひ聞かせながら、手を前に出した」

目からうろこが落ちるような気持ちでした。なんだか、今なら25メートル泳げるような、……いやそれどころか、100メートルでも泳げるような気がするくらいでした（おいおい、おなかも出てるし、できるわけないだろ！）。

日本人の平均寿命がまた延びて、女性は

世界一の88歳だそうです。吹けば飛ぶような人生と言っても、これは遠泳に等しいもの。しかも《一難去ってまた一難》と昔から言われるように、その人生はいつも困難とぶつかりながら進みます。

この苦しみからどうやって逃れられるのか。このトンネルはいつまで続くのか。この悲しみを忘れられる日など来るのか……。

プールの向こう側ではありませんが、それは遠く見えます。行き着けるわけがないと私たちを絶望させます。

でも、焦っても答えは出ないようです。たぶん、私たちにできることは、そこで、「あとひとかき」「もうひとかきやってみるか」の繰り返しです。

旧約聖書の詩人は、「主は人の生涯を定め」と言わず、「主は人の一步一步を定め」と歌ってくれました。人生は吹けば飛ぶようなものではなく、苦しみながら、祈りながら、絶望しながら、励まされながら、涙を流しながら、何とか踏み出す一步一步の集大成だと伝えたかったのではないのでしょうか。

一步も踏み出せない時もあります。ひとかきすらもできない時もあります。

でも、あなたは今、息を吸い、息を吐いている。あなたの小さなひと呼吸も、生きている証し。前に進んでいる証し。生かされている証し。ため息だってそうです！

あなたが生きている。そのおかげで、世界が回っています。

あなたの一步に「ありがとう」と言わせてください。

パパレンジャー

あなたの足跡には、 一輪の花が



Photo:SXC / Tory Byrne

